

Social Sciences & Humanities 7 共同声明 COVID-19 からの回復—信頼性・透明性のあるデータ収集

この声明は、G7 諸国の人文社会科学を代表する機関によって取りまとめられた。信頼性・透明性のあるデータ収集に関するこの声明は、COVID-19 が情報、政府及び個人データ、メディア、専門家の役割との社会の関係にどのように影響したかに焦点を置いている。

本声明は、パンデミックへの対応やそれに付随する影響が、ヘルスケアや気候変動、またはより広範に、様々な種類の情報源や根拠、データの種類の効果的な理解・活用・統合が政策決定に必要であることをどのように明らかにしたのか、人文社会科学の観点からの重要な知見の概要である。

データの共有と収集

コンテキスト間のデータのリンケージやガバナンス、学習は、相互に関連する長期的な社会的影響を解決するために重要である。接触追跡アプリといった、パンデミック対応で使用された健康技術の急速な開発と展開の影響は、現在の危機の深刻さと即時性と相まって、人々が通常適切なレベルのデータ収集と見なし得る限度を押し上げている。利益とリスクの間には重要なバランスがあり、特に脆弱なグループやコミュニティの人々に適切な保護手段を講じることが必要である。

危機に対する技術的対応の展開のスピードは、セクター間及び政府の国家レベルと地域レベル又は地方政府レベルの間で、タイムリーかつ適切な方法で貴重なデータを効果的に共有することを困難にしている。政府機関や他の機関が取得した公衆衛生に関する調査やデータを政府機関等が利用することに対する不信感は新しいものではない。多くの人々は、現在の危機を管理及び克服するための取り組みを支援するためにデータの使用を受け入れている可能性があるが、パンデミックが終了すると、広範なデータ収集がもはや適切であるとみなされなくなる可能性があり、その場合、パンデミック下と同様のレベルでデータが他の目的に使用され続けることは受け入れられなくなる可能性がある。

健康データの使用と開発のための将来の基準を設定することやデータパートナーシップの枠組み作り一般の人々が幅広く関与することは有益かもしれない。定性的な証言は、豊富で重大なコンテキストに関する洞察が提供可能な、重要なデータ形式でもある。適切で信頼できるデータを収集するには、情報の公正で責任ある共有に加えて、地域的・文化的に適切なシステムと解決策が必要となる。

様々な人口統計上の集団のプロファイリングやその他のデータの誤用から保護することは、データ収集とデータ使用に対する一般の信頼を構築するために重要である。テクノロジーへの過度の依存が一部の人々へ特権を付与する入口になる一方、他の人々にさらなる不利益をもたらすリスクもある。適切に使用され、上手くデザインされた技術的イニシアティブのいくつかは、障害を持つ人々に関するより良いデータといった、特定のグループに対して長期的な利益をもたらす可能性もある。しかし、十分に代表されていないグループに関して、情報をより多く、より良く収集するだけでは、グループの内の、またそのグループが被る格差を解消することはできない。

政策決定者は、特に危機的状況において、適切な場合には国際的なレベルで行うことや、より活発的に行うことさえも含めて、他の機関との健康に関するデータ共有を標準設定にする必要がある。これは、より調整・共有された事実の評価が公共の利益に資するためである。このような共有は、ストレージとアクセスに関する堅牢なセキュリティシステムのコンテキストで行うことが必要である。

情報伝達、メディア及びソーシャルメディア

情報の不足、逆に偽情報の拡散は、健康に関わるリスクをもたらす。これは、長年にわたって多くの様々な健康危機で発生している状況であり、また、ワクチン忌避に関連して注目されている。

特定の国において、メディアの利用状況は健康行動の優れた予測因子であることがしばしば証明されており、健康保護行動と COVID-19 情報を得るための従来のメディアの利用との間には正の関係性が存在し、通常のソーシャルメディアの利用とパンデミック下における後ろ向きな健康行動との間には負の関係性がある。デジタルプラットフォーム（ソーシャルメディア、動画共有サイト、メッセージングアプリ）は、パンデミックの間、常に高いレベルで使用されているが、これらのプラットフォームにおける COVID-19 に関するニュースや情報の信頼性は限定的である。これらのチャンネルは、しばしば、公式の健康情報を宣伝しているが、誤った情報の流布と消費に関連する深刻な問題も抱えている。

個人が自身や他人を守る方法に関する情報が様々な文化的・言語的コンテキストにおいて受け取られるための方策について、常に注意が払われてきたわけではない。個々の行動の重要性を伝えることは、COVID-19 パンデミックの急速に展開するという特徴と伝達されるメッセージの性質が変化するという特徴によって複雑になっている。不確実性の条件によって、マスク、社会的距離、ワクチン等の対策の安全性と有効性を伝えることをより困難にしている。これは、主要なソーシャルメディアプレーヤーに対する規制の欠如及び公共放送の衰退によって悪化しており、過去の健康をめぐる恐怖の記憶と相まって悪化している。効果のないコミュニケーションは、健康危機やパンデミックによるリスクについての一般市民と専門家の認識の違いにつながる可能性がある。不安をあおることは効果がないと過去に証明されており、また、コミュニケーションは、個人及び活きた経験により焦点を当てることが可能であり、より前向きなメッセージを発信するとともに、「事実」やモデリング、及び最悪のシナリオのバランスを取ることができる。これらの問題に対処するには、強化された科学的助言メカニズムを通じたコミュニケーションの改善が重要となる。

データと証拠の流れは、あらゆるコミュニケーションの重要な要素である。コミュニケーションを双方向のプロセスにし、情報をフィードバックすることで人々や組織に参加を呼びかけながら、情報を提供するように努力する必要がある。情報ソースの透明性を高めるとともに、様々な社会集団が情報にアクセスし、情報を受け取り、消費するための様々な方法に取り組む努力が必要である。コミュニケーションは、人々の活きた経験を反映し、そこから学び、単純な情報共有を超えるものとなることが必要である。世界的な高齢化の急拡大傾向を考えると、高齢者をコミュニケーションに確実に参画させる必要もある。高齢者は、仮想環境へのアクセスと技術に関する知識が限定的であり、または視覚や聴覚等が不自由である可能性があるためである

提言

我々は、G7 各国政府に以下のことを求める：

- 過去の危機の制度的記憶を改善する方法の検討と、これを使用した、様々な地理、文化、国の違いからの学びを含む、意思決定のコミュニケーションの改善
- 適切なガバナンスメカニズムの構築や委員会の設置等による政府機関内及び政府機関間での、データ（特に健康及び社会の横断的データ）収集と管理を含むデータリンケージの強化、及び外部の認可された専門家、研究者及び、地元の機関等に対する、ローカライズされたデータを含むデータアクセスの継続的な改善
- 特に、十分に社会に意見が反映されないマイノリティの人々の声の強化と国民の信頼の向上を重視しながら、政策決定に地域コミュニティが関与し地元の知識を展開することが可能なメカニズムの創設による、とりわけリスクについての政府と国民の間のギャップの縮小に資するような、リスク、不確実性及

び未知のものに関するコミュニケーションを改善する方法の検討

- 表現の自由への取り組みの維持と、出版及び放送メディアに適用される規制の枠組みに沿った、ソーシャルメディア規制強化の支持
- 非政治的で広く信頼されている専門家からのパブリックコミュニケーションをより重視した、COVID-19への長期的な対応における、政策決定の基礎となる科学、研究、情報の透明性を高める方法の検討
- ガバナンスレベル全体での調査、データ分析及びコミュニケーションに関する専門知識を深化する方法の検討
- グループやコミュニティ内及びコミュニティ間の前向きな関係を構築するとともに、主流メディアや公式情報を活用しない傾向にあるグループに情報を伝達するため、ソーシャルメディアプラットフォームが誤情報の拡散に対処するとともに、高く評価され広く信頼されている専門家の情報源を最前面に出す構造・枠組みとなるための支援と、インセンティブの創設・維持